

# 1. 評価報告概要表

作成日平成 22年 3月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1071100091
法人名	有限会社ふるさと
事業所名	有限会社ふるさと
所在地	安中市鷺宮1956-1 (電話) 027-384-0367

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年3月17日

## 【情報提供票より】(平成 22年 2月 28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 4人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	日額 800 円	その他の経費(月額)	光熱費(夏7~9月・冬12~3月)1日100円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	又は1日 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	67歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	アミヤ医院 ・ 今井歯科医院 ・ みやぐち医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな農村地帯に山を背にして日当たりの良い場所にホームはあり、デイサービスとグループホームを運営している。平成12年開設から、重度の方や身寄りの無い方を積極的に受け入れ、ホームでベッドや整理箱、衣服等を提供している方もいる。代表者は「最後まで介護をします。」と説明し、看護師と連携し支援し看取りも経験しており、重度化や終末期のケアについては本人や家族の希望に添い、家族・かかりつけ医・ホームで話し合いをして方針の共有をしている。入居者は、天気の良い日には散歩をしたり、花の水遣りをしたり、庭先のベンチに掛けて外気浴をしたり、部屋で過ごす等一人ひとりの生活を支援され過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価を受けて地域密着型サービスとしての理念を見直したり、自己評価に管理者と全職員で取り組んだり、運営推進会議の開催場所をホームの会議室に変えたり、昼間は玄関の鍵をかけずに玄関から戸外に出る入居者の見守りをしたり、災害時の近隣の方への協力を依頼したり等具体的な改善に取り組みをしている。介護計画の見直しについては、検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、全職員は評価の意義を理解し、自己評価について話し合い管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、入居状況、行事運営、評価結果報告、インフルエンザ対策、介護保険、地域の情報等を議題に話し合いをしている。地域の方からの花情報により行事を計画したり、行政から運営推進会議の意義について説明される等、出された意見をサービスの向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談受付窓口は重要事項説明書に明記し説明しており、意見箱も玄関に設置している。また、家族の面会時には声をかけ意見要望を表せるよう働きかけをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板が回り道路清掃に参加したり、地域の秋祭りに出向いている。入居者は天気の良い日には近隣を散歩し地域の方と挨拶を交わしたり、近隣の方が野菜を届けてくれる等地域の方との交流を深めている。また、歌のボランティアの訪問がある。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての意義を理解し地域で暮らし続けることのサービスの在り方を考え、これまでの理念を見直しホーム独自の「地域の方達と協力し、入居者が安全で健康的な生活を過せるよう支援をする。」を全職員で創り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、健康的で安全に過せるように、天気の良い日は散歩に出かけたり、午前および午後に体力アップ体操や硬直した四肢のマッサージ等のリハビリ支援を行う取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは自治会に加入し、回覧板が回り地域の道路清掃やお祭りに出向いている。入居者は散歩に出かけると地域の方と挨拶をしたり、近隣の方が野菜を届けてくれたりする。ホームで行う夏祭りには近隣の住民を招待し、踊りのボランティアが見えて入居者と一緒に踊るなどしている。	○	地域の幼稚園との交流や小・中学生の体験学習の受け入れ等地域とのさまざまな接点を見い出されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は管理者・職員で話し合い、管理者がまとめている。昨年の評価結果を検討し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議は開かれ、入居状況、行事運営、介護保険、インフルエンザ対策、災害対策、その他の議題について話し合っている。評価を受けて、運営推進会議の場所をホームに変え、地域の方に災害時の協力依頼を行ったり、地域の方からの花情報から戸外へ出かける等意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月安中市のサービス調整会議に出席し、スプリンクラー設置についての説明を受けたり、生活保護のことで相談したり、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。また、市主催の救急救命、AEDの使い方、接遇、認知症等の研修に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に見えた折に、入居者の暮らしぶりや健康状態を報告し、遠方の家族には毎月の請求書と共に手紙を郵送している。緊急の場合は、電話で報告している。金銭管理は、必要時にはホームが立て替え、レシートを提示して家族に支払って頂いている。また、家族がいない方の通帳を預かり、毎月の収支を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関を入ると意見箱を設置している。来訪の家族からは、直接口頭で希望等を聞いている。また、苦情相談受付窓口については家族に説明し、重要事項説明書類に明記して、ホールの壁に掲示している。出された意見は検討をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と一緒に介護の仕事をしていくという姿勢で、職員とのコミュニケーションを大切にして、離職を最小限に抑える努力をしている。代わる場合は本人家族に伝え、個々の入居者の特性や性格などを時間をかけて代わる職員に説明し、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員を段階に応じて育成している。職員は県主催の実践者研修や認知症等の研修に出席し、参加後は報告書を作成し会議で伝達している。希望する研修にも参加し、法人内の勉強会も行っている。また、ホーム内では胃ろうのカテーテルからの栄養注入等の実技の勉強会が行われ、新入職員に管理者や先輩職員が附いて指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は安中市のサービス調整会議に出席し、同業者と意見交換し交流をしている。レベルアップ研修では、他ホームとの相互訪問等もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があると本人や家族にホームを見学して頂き、納得ができるように説明をして、本人の馴染みの物を持って来て頂けるよう話をしている。病院からの入居や事情により直ぐに入居するケースが多く、入居前に関わりが来ないため情報収集がしにくい状況にある。	○	できるだけ入居希望の方の入居先や自宅に出向き、本人や家族等に面会し顔馴染みになり生活の仕方や性格等を把握して、家族等と相談しながらホーム入居をすすめるよう期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の思いを大切にしたり関わりをしている。入居者から戦争体験や昔の歌、料理の味付けや裁縫等の生活文化について教えてもらっている。また、読書やゲームをしたり、ペットのパンダうさぎとの触れあいを楽しんでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望を聞いて、天気の良い日は出かけたいと言えば戸外へ出かけたりしている。困難な方には、ジェスチャーや筆談で伝えたり、しぐさや目の動き等で意向を把握している。また、家族と相談して本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に、本人や家族の要望等を聞き、ケア会議でケアマネジャー、職員で検討をして介護計画を作成している。介護計画は、家族の了承を得ている。遠方の家族に郵送している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月の介護目標を立て、3ヶ月の介護計画期間とし、心身の状態の変化があれば随時見直しをして新しい計画を作成している。変更があった介護計画の内容は、申し送り、ノート、電話での連絡などで職員への周知徹底をしている。	○	心身の状態が安定している方であっても月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向や状況を確認し、モニタリング等を行い記録として残して置くこと期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の受診の同行をしたり、経済的負担から特別養護老人ホームへ移りたい相談を受け紹介をしたり、近隣美容師の訪問により髪をカットする等柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や希望によって協力医をかかりつけ医としている方がいる。協力医は月1回往診に見え、診察や薬の処方などをして、また夜間の相談にも応じてくれる。その他の科の受診や歯科は、病院等と関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化した場合や看取りの介護について説明をしている。身体の状態による重度化や胃ろう増設をしている方本人や家族の希望により、家族・かかりつけ医・ホームで話し合い、方針の共有を図っている。看取りについて経験をしているが、重度化や看取りについての指針が作成されていない。	○	重度化した場合や看取りについて全職員で検討し、指針を作成されるよう期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切にしたり関わりをしている。丁寧な言葉遣いや排泄時には耳元で小声での会話で対応している。個人の記録類はホールの鍵のかかる戸棚に保管をし、記録時にホールに持ち出して記録している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おやつやの時間に眠い方はそのまま寝ていてもらったり、ドライブや散歩に出かけたいと希望する方には一緒に出かけている。一人ひとりのペースを大切に、入居者の希望に合わせた生活を送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は2つのテーブルを囲み、職員1名が加わり一緒に会話しながら食事をしている。歩行が出来る方には、下膳をしてもらっている		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2日、男女別に曜日を分けて入浴をしている。夜間の時間帯や毎日入浴を希望すれば、入浴が可能である。拒否する方には、翌日又はタイミングをずらして対応している。入浴ができない方には、清拭で対応している。カラフルな入浴剤を使い楽しめるよう支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かして、洗濯ものたたみ、カレンダーめくり、簡単な繕いものをしてもらっている。また、パズルや塗り絵、習字等職員と一緒に楽しんだり、妙義山や秋間梅林へ車で出かける等、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの周りを散歩したり、車椅子の方も庭に出てベンチでお茶を飲んだり、外気浴をしたりしている。また、桜や梅を見に出かけたり、自宅に行きたいと希望があれば家族に連絡をして車で出かける等の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間を除いて玄関の鍵をかけないケアに取り組んでいる。入居者を見守り、帰宅願望がある方には自宅までドライブし本人に納得してもらいホームに戻る等対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の火災訓練を消防署の指導の下、マニュアルを作成し、夜間・昼間を想定して行っている。訓練では、避難経路や避難場所の確認、消火器の使い方、車椅子の方の誘導方法等を行っている。緊急時の連絡網が掲示されている。また、近隣宅に災害時の協力を依頼している。備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者の希望を聞き、献立を作成している。食事量・水分量は1200～1500mlを目安にチェックし、体重測定は月1回行い、その情報を共有している。嚥下障害の方には粥に総合栄養剤を加えたり、胃ろうの方はハイカロリー食を注入したり、水分不足にならぬように調整したり、便秘症の方には医師の指示により下剤を使用する等体調に合わせ支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると居間兼食堂になっており、洗面台が設置され、テレビ・ソファーが置かれ、季節の花が生けられている。壁には入居者の塗り絵や折紙作品、入居者と共に出かけた秋間梅林の写真などが貼られている。ゲージの中に一匹のパンダうさぎが居て、動物との触れあいがある。生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や本人が描いた塗り絵や習字等がかけてられている。家族には、本人の使い慣れたものを持って来てもらえるように伝え、居心地よく過ごせるように工夫をしている。ベッドや衣装ケース、衣服など殆ど事業所の物を使用している方もある。	○	居心地よく過ごせるよう使い慣れたものを持ち込んだり、持ち込めない場合や持ち込みを希望しない場合にも、家族等と相談しながら安心して過ごせる環境づくりに期待したい。